

SSKO

東腎協

東京都腎臓病患者連絡協議会

事務局 東京都新宿区

〒161 電話

郵便振替口座

加入者名 東腎協

80年4月25日

No. 31

病気のなかま

みんな速い存在でなく、手を伸ばせば届く身近かにいて、私達が寄つてゆくの待っていて下さるのかも知れません。そして言われました。後ろを見てばかりしないで、前を向いて生きていかねばならないと。その言葉がとても素直に心に沁みてゆきました。過去を振り返らず、前を向いて、未来を見つめて生きてゆきましょう。

(ニレ友の会機関誌・風間さんのインタビュー記事より)

昭和五十一年二月二十五日第三種郵便物認可
SSKO通巻第四百五十六号(毎週日曜日・金曜日発行)
昭和五十五年四月二十八日発行



え・大森輝秋

最近の医療をめぐる情勢について

東京都腎臓病患者連絡協議会

宝 生 和 男

去る二月二十四日、東京都障害者福祉会館において開催された第四回幹事会で最近の医療をめぐる情勢について説明を行ないました。

それは、今国会に提案された健康保険法の改正案で、この問題は過去三回にわたり、私達の運動によって廃案にしたいきさつがありました。今回またも上げられた背景には保険財政の改善をめざすということと個人負担の導入、つまり常に受診する患者にその費用の一部を分担させるという制度そのものを定着させようとしています。また、各政党の発言の中にも定額の負担、一律の負担がもつとも望ましいと提言されています。いずれにしても私達、特に透析患者に大きな負担をもたらすことはまちがいありません。

一方、行政管理庁が厚生省に対して行った公費負担医療のあり方についての勧告では、結核予防法を含めて更生医療も

見直しが行われるのではないかとの情報もあります。この動きによつては私達に多の影響を及ぼしてまいります。

こうした情勢に対して私達はどのように対処すべきか、どのように運動を進めていくべきか、真剣に討議して欲しいものです。

なお、ここでお詫びしておきたい事項があります。都財政の悪化から心身障害者福祉手当が区市町村に移管されると説明しましたが、都民生局計画課主査馬場氏に面会したところ、資格者には支給されることを確認されました。十月からは七、五〇〇円に増額される予定になっています。



△おもしろ記事▽



最近の医療をめぐる情勢について……………	(2)
絵画サークルに情熱燃やす大森さん……………	(3)
東腎協第八回総会開く……………	(4) / (5)
私の盲腸入院記録……………	(6) / (7)
全腎協国会請願に参加して……………	(8) / (9)
看護婦実生習と懇談、礼状届く……………	(9)
仲間からのたより……………	10 / 13
第六回関東ブロック会議開く……………	14
新聞の切りぬきから……………	15
事務局からのお知らせ……………	16
△なお、「患者のための腎臓学」は都合により今号は休ませていただきました▽	

染色工芸家・大森輝秋さん

障害者の絵画サークルに情熱燃やす

大森輝秋さんは、長野県に生まれました。家が農家だったので両親は農業を継いで欲しいと願っていましたが、小さい頃から絵を描くことが好きでした。高校在学中にかいた絵が県展に入選した時から、画家の道を進もうと決心しました。高校卒業後上京しました。ふとしたことから、染色工芸家に弟子入りし、本格的に染色工芸の道を進むことになりました。ところが、昭和四十五年夏頃、それま



東京二紀展入賞作 「生きる」

で寝る時間も惜しんで制作活動に追われていたため過労で倒れ入院、蛋白が検出されたことを知りました。

結局、それ以来いくつかの病院を転々として最後に佼成病院を紹介され、ここへ四年間通院、昭和五十一年七月から透析を開始しました。透析を始めた頃は、スケッチブックを持って病院へ行き、透析中看護婦さんや隣りのベッドの人などスケッチを続けました。

日頃余り描くことの少ない手をじっくり描写することによって、油絵の分野も新しい作品を生み出す源となりました。東京二紀展出品作品「生きる」（昭和五十三年）が入賞しました。

大森さんが身障者の画家によるサークルをつくり、交流をしたり作品と一緒に発表したりしたいと思った動機は、新聞で東京のコミュニティカレッジ（事務局野口英世記念会館内）という存在を知っ

た時から始まりました。

ここでは、常設の身障者絵画展（渋谷・東邦生命二階アートギャラリー）を開いています。いろいろの障害者の作品を展示し、また作品も売っています。

大森さんも何度かここへ出品し、作品も数多く売れました。売上げの一部は寄付され運営資金にもなっています。

大森さんはプロの画家、もつと自分ができることはないかと考えた末、サークルづくりを思いつきました。

サークルの名称は、たけのこ会。「身体に障害を負った画家による創作活動と相互教育を通して、作品の質的向上と人間交流を図る」というのが会の趣旨です。東腎協会員でこれから描いてみようと思う方でも連絡下さいと大森さんは話しています。

△連絡先V〒177練馬区

月、水、

金は夜間透析なので自宅にはいないとのことです。

（取材・笹・加藤）

東腎協第八回總會開く

記念講演も好評に終る

東京都腎臓病患者連絡協議会（東腎協）第八回總會は、四月十三日（日）、港区芝の東京都障害者福祉会館で開催されました。当日はあいにく雨に降られましたが一二五人の参加者が集まりました。

總會は、定刻の午前十一時十五分から一ノ清明副会長のあいさつの後、議長団に田中克人さん（聖友会西新宿病院腎友会）、板井久男さん（国立王子病院サンシャイン会）を選び議事に入りました。

最初に宝生和男会長から「これからの運動を盛りあげるため、活発な意見を述べてほしい」とあいさつがありました。

続いて来賓の日本社会党菅原宗一郎議員、日本共産党池田梅夫都議から都政の場で今後も東腎協の要求実現のために、一緒になって頑張りたいとの激励のあいさつがありました。

全腎協の上田会長からは、「八〇年度に入って私たちの運動も困難になっていくが、三万人以上の人工透析患者が将来

ある先生によると十二万人という数字さえ出している。医療スタッフも限られた資源ということで問題になってきている。私たちの命はこれからも守られていくのか。自分（透析患者）の命を守るといふことは、私たちの苦しみをこれ以上増やさないことであり、他人の命を救うことになりまます。これからは他人の命を守っていくために、東腎協の皆さんが団結して頑張っていたきたい」との連帯のあいさつがありました。

続いて祝電、メッセージが鈴木俊一都知事をはじめ二十一通披露されました。引き続き昭和五十四年度活動報告を石川勇吉事務局長、同決算報告を山北貴義会計、同監査報告を高橋輝義会計監査よ

新役員紹介

- 会長 宝生和男（ニレ友の会）
- 副会長 泉山知威（国立王子病院）
- 一ノ清明（フェニックス会）
- 高橋勇二郎（西新井病院）
- 平沢三吾（こぶし会）
- 事務局長 石川勇吉（個人会員）
- 次長 加藤 茂（代々木病院）
- 川下俊之（目黒駅前クリニック）
- 会計 山北貴義（フェニックス会）
- 常任幹事 秋山順子（西池袋診療所）
- 池井 弘（人工腎臓虎の門病院）
- 石原志敏（大橋クリニック）
- 糸賀久夫（聖友会西新宿病院）
- 大貫裕康（飯田橋クリニック）
- 草間和男（ニレ友の会）
- 小泉佐内（杏林大学病院）
- 小林孟史（代々木病院）
- 笛 智子（大和病院）
- 森 義昭（虎の門病院）
- 矢口裕一（南千住クリニック）
- 矢沢輝之（飯田橋クリニック）
- 渡辺多加代（東村山病院）

り報告を受け、三案を一括して討論しました。

討論では、井口恵子さん(代々木病院腎友会)から「腎提供者の登録が進まない」と聞いているが、各腎友会まで登録用紙が届いていないのではないかと。また主眼頭でいつせいに宣伝をすれば効果があると思う」との意見がありました。文書発言も一通届いて議長から紹介されました。この人は堀孝一さん(しろがね会)で「透析後二年余たち理解ある妻と結婚でき幸せな生活を送っているが、何か仕事をしたくとも社会復帰の道はあまりにも遠い」と社会復帰の願望を強く訴えたものです。

討論のあと拍手で三案を承認し、昼会休憩しました。参加者にはカツサンドと牛乳が支給され好評を得ました。

午後の部は午後一時十分に再開され、昭和五十五年度活動方針(案)を宝生和男会長、同予算(案)を山北貴義会計から提案され、討論に入りました。

沢田さん(大和病院透析友の会)から都立豊島病院の透析室拡充について、都内で移植できる病院は幾つあるのか、と

の質問がありました。これに対して、宝生会長からは、豊島病院の拡充はどの程度のものかわからないが、都の考え方は都立病院は専門病院化の方針をとっていること、都内で移植できる病院は十二カ所との答弁がなされました。以上二案も拍手で承認されました。続いて新役員を選出し、スローガン採択、新会長あいさつの後、総会宣言を採択し、平沢三吾副会長の閉会あいさつで幕を閉じました。

総会終了後、丸茂文昭先生(北里大医学部助教授)の「透析患者の自己管理」と題する記念講演を行いました。



△幹事▽

内田豊幸(東村山病院)、小川浩司(幸クリニック)、萩原広次郎(大病院) 奥野い久代(立川第二相互病院)、二益峯隆(西新井病院)、小名力雄(大和病院)、紙谷清(一ツ橋クリニック)、木住野恵美子(虎の門病院)、木村妙子(他の端クリニック) 酒井勲次(こぶし会)、桜井久男(国立王子病院)、篠原栄一(聖友会西新宿病院)、坪玉枝(昭和大学病院)、杉野一夫(調布病院)、鈴木一成(大橋クリニック)、竹田清志(今尾病院)、田口秀夫(ニール友の会) 丹沢重一(西池袋診療所)、辻功(島田総合病院)、辻番一郎(飯田橋クリニック)、寺田嶺一(中島病院)、外山泰弘(藏本病院)、中村美枝子(南千住クリニック)、橋本幸一(目黒駅前クリニック)、藤井実(千駄木クリニック)、堀之内正(立川クリニック)、牧山幸子(杏林大学病院)、松本裕(フェニックス会)、三ツ木脩(三軒茶屋病院)、三住一郎(西国クリニック)、山浦正彦(代々木病院)、吉原久雄(南多摩病院) 渡辺敏孝(豊島中央病院)

会計監査 武富正治、山田誠

私の盲腸入院記録

東腎協副会長

泉山 知 威

手術までのこと

いずれやるだろうと思っていた「急性虫垂炎」(以下わかりやすく「盲腸」と言う。)になったのは、昭和五十五年一月二十日、日曜日の午後だった。

最初はヘソの周りが「シクシク」する程度だったが、夕方には「ズキン、ズキン」と痛むようになってきた。

昨年にも同じようなことがあり、点滴で直した経験があるため、「あ、これは盲腸だ」と直感した。

この日は良く眠れなかったが、翌二十一日、月曜日に本院の主治医を訪ね診察を受けた。

その結果、即入院手術と決まったが、このときの白血球は一万一千だったとのことである。

さて透析のことであるが、私は十八日、金曜日の夜間透析(普通は月・水・金の

夜間五時間透析)が最後であったので、今日の透析は翌日に延期された。

手術のこと

私の手術は午後二時過ぎに手術室に運ばれ、「腰椎麻酔」を行なったが、麻酔のききが悪いため「局所麻酔」も併用された。

手術は約一時間かかり、普通の人より大分時間がかかったようである。

盲腸の方は化膿してゆ着し、腸の奥に入っていたとのことで大変だったようである。

また透析患者であるため、ドレンを入れずきれいに処置して閉じてしまったとのことであった。

手術中に五百mlのビンで点滴をしていたが、手術後も残りを続け、これが終わるとなお、千二百mlの点滴を行なった。

さて、手術の感想であるが、腸を引っ

ばられるためか多少気持悪くなったほかは、それほど苦痛もなかった。

透析のこと

このような結果、私の透析は翌二十二日、火曜日の朝からとなった。

一日遅れたため六時間透析となり、この日のデータは透析前で、体重六十・九Kg(〇・九Kgの増加)と以外と少なく、ヘマトは四十二・九%と多少落ちていた。

尿素窒素は八十七mgと普通であり、クレアチニンは二十四mgと少し高めであった。(普段は二十mg前後)

一番興味を持っていたカリウムは二・九ミリエイクイバレントといつもより低めであった。(普段は三・五から四・〇)

肝腎の透析の結果であるが、透析後のデータは平常通りに戻り、体重も千五百mlの点滴をしてなお〇・七Kgの除水を行なった。

さて、透析終了近くになって困ったことがおきてきた。腹にガスがたまって苦しうがいないのである。

透析終了後病棟に帰ってから、初めてソロソロと立ち上がリトイレに行つたところ、「ボン、ボン」と小さく二回ガスが出、その後腸に刺激を与える坐薬を使用することにより気持よいほどガスが出てさっぱりしたものである。

その後の経過

この次の透析は二十五日、金曜日に七時間透析と決まった。(今週は週二回)

さて術後の経過であるが、二十三日の朝は白湯を飲み、昼食と夕食は流動食(透析者用)であり、なお点滴が七百五十mlであった。

二十四日、木曜日は三分がゆとなり、点滴は五百mlであった。

二十五日、金曜日から五分がゆとなり、中二日間で、食事、飲水量、点滴の合計が三千四百七十gあったが、体重増加は〇・六kgと驚くほど少なかった。

その後、二十六日、土曜日より全がゆとなり、二十七日、月曜日から普通の透

析食となった。

盲腸の方は二十九日、火曜日に半抜糸し、二月二日、土曜日に抜糸したところ、上部一針分の所から浸出液が出て来た。

このためガーゼ、ドレンを一週間続け二月九日、土曜日にステリ・ストリップ(創を固定するテープ)で固定した。

そして二月十六日、土曜日に約四週間ぶりに退院し、以後通院(週二回)し二月二十七日、水曜日に無罪放免となったのである。

退院までの透析で体重は約一・五kg減少したが、心胸比も三十八%(前月は四十・一%)と小さくなったので、体重減少はあまりなかったようである。

また、体重増加であるが、中二日間の透析で総摂取量三千八百gぐらいのときは〇・八kgと非常に少なかった。

私の感じたこと

私の病院では透析患者で盲腸手術をした人は五人目のことであるが、普通は二週間くらいで抜糸、退院となるのとことであった。

さて、私の感じたことを記してみるが、

まず第一にヘマトの問題である。

私は高いので問題なかったが、ヘマトの低い人は手術を考えると普段からできるだけ高く保っているようにするべきだと思ふ。

第二に心胸比であるが、術後の点滴が割合多いため、万が一に心不全等の恐れを考えると小さく保っておくべきだと思ふ。

また体重であるが、入院中の増加量は少なかったが、これは塩分摂取量が少ないことと、暖房のため不感蒸泄が多かったためではないかと思ふ。

このように考えてくると、私達透析患者にとって大事なことは、ヘマトと心胸比は常に良いデータにしておくなど自己管理を守る必要があるのではないでしようか。

これからの長い透析人生に向って、皆さんお互いに頑張っていきましょう。

東腎協常任幹事の笛智子さんは、全腎協が毎年行う国会請願に初めて参加しました。「自分達の事は自分で頭張らなくてはいけない」と次のような感想を書いてくれました。

透析患者のかかえている問題を

再認識させられました

笛 智 子

私は二月五日（火）行なわれた全腎協国会請願に初めて参加しました。

午前十時に第一議員会館ロビーに集合ということで、国会請願とはいったいどういう事をするのだろうかと少々不安もありましたが、宝生会長に「勉強のためにも一度参加してみるといいですよ」と言われていました。

地下鉄国会議事堂を登り舗道へ出ると警察官が要所要所に立つっており、重々しい警戒の中を会場へ向いました。

午前十時到着、すでにロビーは全国から集まった方々でいっぱいになっていました。そして知った顔を見つけた時はホッと安心しました。一瞬ロビーをまわがえたのではないかと思うほど、知った方に出逢わなかったからです。ここにい

る大勢の人達が皆んな透析を受けていると思うと……何とも言いがたい不思議な気持ちになりました。

十時三十分 第一会議室で集会が始まる。各党の議員の方々から激励の挨拶がありました。腎臓病患者に関する認識が意外に深い事に驚かされました。

これもひとえに今まで十年間先輩の方々が透析患者の実態を社会に訴え続けて来られた活動の歩みのたまものと、心から痛感いたしました。

続いて各県代表からの報告があり、これ以上腎臓病患者を増やさないために、早期発見、早期治療が叫ばれました。現在小児検尿が行なわれていますが、検査も各県まちまちで臨床検査が徹底している所が少なく患者が減るという状況にはありません。地方の透析患者は近くに透析設備のある病院がないために日帰りが

出来ず、おまけに交通費だけでも莫大な金額で、透析患者は優遇されているとはいふもののかかえている問題の大きさをあらためて認識させられました。

このあと昼休み一時間、食事がすむと一時から三時まで、各議員室を訪問致しました。

今回の全国からの国会請願参加者は一三八名で、四ノ五名で一組となり、全国から集められた請願書を紹介議員になっていたために、議員控室を尋ね腎臓病患者の実情を訴え、協力をお願いして廻りました。

三時から、それぞれの組を作った班から報告があり、三時半すぎ、一日の予定が無事終りました。

私は、全国からの参加者一三八人の内、地元東京からの参加者は二十四人（内、役員十人）で何と少ないのだからと思いました。かくいう私も今日まで事の重要性を甘く考えていた一人でした。

私達は日頃、人まかせで、毎日のように動き廻っておられる役員の方達の奮闘振りや、身近に把握する事がなかなか出来ない為に、非常に理解力が薄れている

所があるように思われます。

地方の方々が頑張っておられる姿を見るにつけ、私もひとまかせにせず、自分

看護婦になっても精一杯頑張りたい

— 宝生会長ら看護婦実習生と懇談 —

一月二十二日(木)、日赤中央女子短大三年生の加藤さん他数人が来所して宝生会長、石川事務局長と懇談しました。話の主な内容は、①患者会の目的と役割について②透析患者のかかえている問題点③看護婦に望んでいること④導入期の

達の事は自分達で頑張らなくてはいけな
いことを、あらためて反省させられまし
た。

患者の指導計画を作るに当って経験者の
意見などの話を聞きたいということ、
三時間余にわたりました。その後、事務
局にその時のお礼状が届いていますので
紹介します。

「拝啓

如月(きさらぎ)も半ばを過ぎ、寒風
の中にも春の兆しを感じるこの頃でござ
います。

過日の総合看護実習の折は、東腎協訪
問の計画に快く御協力いただきましてあ
りがとうございました。

実際に透析を受けていらつしやる皆様
からの貴重な御意見をいただき、私達一
同、深い感銘を受け、自らの看護の心
に新たな意欲を生み出した次第です。

私達もあと残すところ三週間余りで平
業となり、国家試験に合格いたしました

折は、いよいよ本物の看護婦として臨床
に出ることとなります。配属はどこにな
りますか、まだはつきりわかっておりま
せんが、いずれの病棟になったとしまし
ても、今まで学習を重ねてきた事柄を活
かし、かつまたこれからも学ぶ心を忘れ
ず、前進していきたいと思えます。

まだまだ未熟な私達ですが、精一杯頑
張りたいと思っております。

皆様もこれからはますます御活躍下さい
ますよう、私達一同頑張っております。

お体十分においたわり下さい。
お礼が遅れまして申しわけありません
でした。本当にありがとうございます。

敬具

昭和五十五年二月十九日

日本赤十字中央女子短期大学

透析室実習グループ一同



仲あがりだんご

え・大森輝秋



△大森輝秋さんの略歴▽

昭和19年、11月16日長野県辰野町生まれ。

昭和38年、高校卒業後上京し、武蔵野

美大実技専修科(夜間)へ入学、同

時に染色工芸家田中種水氏に師事。

昭和41年、日本染色作品展初入賞。以

後五回連続入賞する。

昭和43年、二紀展初入選。以後八回入

選する。

昭和50年、53年、東京二紀展入賞。

現在は日本染色作家連盟委員、東京染

色美術学院講師。

残された家族も健康の
大切さを忘れず頑張りたい

患者家族

武藤 郁子

私、先日お電話で腎臓病の母のことで
ご相談をしていたいただきました者でござい
ます。

その節は、早速資料を送っていただき、
とても参考になり、感謝しております。
何分にも病状が悪く落ちつきませんでし
たので、入会させていたどころと存じて
おりましたが、お礼もせずそのままにな
って申し分ございませんでした。本当
に、ご親切ありがとうございました。

私達も、出来るだけのことほしたいと
手をつくして、医師や看護婦、その他の
方々にもよくやっていただきましたが、
八日の未明に息をひきとりました。血圧
が下って、他の状態も悪く、心不全でござ
いました。ただ、息をひきとる時、本
当に眠るようだったのが、私達もせめて
も心なぐさめることでした。

全腎協の皆様も、どうか皆様達によっ
て力づけられる方々がたくさんいらっし

やると思えます。家族の方々も、未知の
ことに不安と迷いで苦しんでいる方が多
いと思えます。

機関誌を読めば、また協会の方々も病
身のご様子です。どうか、くれぐれもお
体を大事になさって、腎臓病で苦しんで
いる人々の力となって活躍なさって下さ
いますよう、心よりお願い申し上げます。
母も五十四歳とまだまだの年でしたが、

若い人達の病気は一段と苦しいものと思
います。この機会に、全国にそういう方
々がいて、生きるために努力しつづけて
いることを知り、私達家族の者も健康の
大事さを忘れずに、またがんばりたいと
考えております。

私自身、悲しみのためか、何を書いて
よいかわかりませんが、皆様のご親切へ
のお礼と、これからのご多幸、ご活躍を
祈っております。

二月十二日

※この手紙は、電話で相談が寄せられ
資料などを送ったお礼としてきたもので
す。

職員が退職しても
そんなに心配することはない

匿名希望

透析医療に従事する職員の退職は、大変不安を感じており、それが質の低下につながるかと心配している匿名氏（機関誌6629）の意見は神経質すぎる見方であり、杞憂である。

最近の透析機械類は性能がよくなり、自動的にできるものが多く、透析技術は標準化され、誰でも短期間のうちに研修すれば一人前の透析技術者になれるようになっていいる。

機関誌の原稿 募集しています



次のような内容のものをどしどし事務局へお送り下さい。

なお、匿名希望の場合であっても送る時には必ず住所、氏名を明記して下さい。長い文章の場合は短かくすることもあります。

- ・患者会の催し（総会、レクリエーションなど）
 - ・自分の関病体験
 - ・詩、短歌、カットなども
- <送り先>

〒161 新宿区下落合3-15-29
田沼ビル（第二）
東腎協機関誌保

私の通院している病院をみても、指導的立場にある人も含めて、次から次へと職員が退職して新しい人が入り変わっていく。

今、透析技術はむずかしい技術ではなく、三年も仕事をすれば十分の内容であり、いつまでも長く続けてやる仕事ではないと思う。

透析患者は、いつまでも一生病院に通院するから、職員の退職が気にかかることもあるが、匿名氏のいう現象はこの職場も同じである。国の行政機関や透析研究会でも定期的研修会を開いており、あまり心配することはないと思うのである。

透析室開設五周年目を
迎えて思うこと

大田病院腎友会 会長

荻原 広次郎

過ぐる一月末日小泉先生より「荻原さん、今日で七百回目の透析ですね」と言われ、年月のたつのは早いもので腎不全患者として一生、人工透析を続けなければ生きていけない病気に不安とこれからの生活、家族のことを考え、毎夜眠れぬ日が何日続いたでしょうか？

生まれて始めてシャント手術、第一回の透析日から私は、一度死んだ人間だ。この透析のおかげで再出発できたのだから塩分と水分の制限、食事の管理を完全に覚えて、尿素・カリウム・窒素・ヘマトクリットを自己の体に合せようと決心本日七百目を迎えることが出来ました。

この間、先生始め看護婦さんにつきまきりになってみていただき、どれだけ気丈夫で心が休まったことか。ただ今は感謝の気持ちでいっぱいです。七百回は週三回透析として四年間いろいろなことがありました。勝手な理屈をつけて看護婦さ

んを困らせたり栄養士の方に何回も食事教室を開いていたが、最近は導入期の真剣さも忘れ定期におぼれ、つい体重を増加させていつも反省しています。

私は、一九八〇年度は医療関係及び福祉後援がだんだんきびしくなっていく、医療機関の充実、福祉予算の確立、社会復帰などの諸問題が山積されているので我が身のつづく限り国会請願、各関係方面の陳情に頑張るつもりでいます。

大田病院では透析開始五周年を迎えて先生、看護婦さん、栄養士さんと初心にもどって勉強会（自己管理、日常生活）を開きたいと思えます。

この勉強会は、自分たち透析者が一日でも長く生きて、社会復帰及び楽しい家庭をつくるために開くのです。

先生、看護婦さんのお世話にならなくては一日も生きていけないことを忘れずに、真面目に透析の基本を守り、つらい人生であっても障害に負けずに一日一日を意義ある生活にするよう相互に頑張らしましょう。

（昭和55・2・20記）

私の腎臓君

こぶし会

滝本 照子

うら若き三十三歳の時、急性腎炎になり一年入院しました。元気になりましたので、悪い腎臓君は退散したもののばかり思っておりました。

ところが意地悪な腎臓君は、いつの間にか居座り追い出そうといくら頼んでも出て行きません。

そのうち、この腎臓君怠け者になって働こうとしないのです。叱っても、なだめても働かなくなりしました。悪い奴でも長い間仲良くしてきましたが、私は腎臓君を見捨て、今は人工腎臓君と仲良くになりました。

腎臓君ゴメンネ。

☆ ☆ ☆
透析七年目を迎えました。

現在は足腰が弱くなって杖をついて通院しています。

各会の腎友会だより

富士登山も計画中です

立川第二相互病院希望会

去る一月二十日、午後十二時三十分より中神ヤングボールで男子六人、女子七人、見学者六人計十九人の参加でポウリング大会を行いました。

お金、トロフィーを寄附していただいたり、会費の中から賞品を全員に渡すように買物に行ったりお祭り騒ぎでした。

ポウリングは初めての人が数人いて、最初は両手で支えているからよいが、いざ投げる段になると重くてその場にバカーンとばかり下に落とすしてしまったり、安定を失って座りこんだり、ストライクを出して勇躍したりで、見ているだけでも楽しく腹の筋肉が痛いくらい笑い、体力低下を久しぶりに向上させるべく、真剣に投げました。

後日、体の調子が悪くなった人は一人もなく、次回もぜひ参加したいと盛況のうちに終りました。

短い時間ではありましたが、日頃楽し

みが少なく、私達にとつて有意義な一日でした。

透析人間も透析を行なわない時は、ある程度自己の体力をみながら運動してはいかがでしょうか。

動かさないと筋肉は動かなくなり、いざ動こうとしても意志に体がついていきません。階段でも同じことがいえます。

何段でもよいから登ってみて下さい。階段はだめだとやりもしないで考えていては、上まで登れるはずがありません。

各会の腎友会だより

根気よく通院検査を

医活発表会報告から

代々木病院腎友会

昨年十月二十日、院内で「医療活動発表会」があり、そのなかで腎臓病担当スタッフからも研究発表がされました。以下その資料を提供していただきましたので、特に腎外来関係について調査された部分をまとめてみました。

◎調査対象は、現在腎外来で管理されている患者100名を抽出したものです。

◎性別 男性51% 女性49%

当会では、今後パーベキュー、バスハイク、観劇、釣り、また富士登山一五合

日まで車で行って、体力相当と思われる所まで皆で登ろうと計画しています。他の皆者の皆さん、よろしくかつたら当会と

合同で企画していきませんか。個人でも参加を歓迎します。

透析人間でも悲観せず、夢と希望を持って一日でも皆で長く、楽しく生活出来るよう努力して頑張ります。

◎管理歴

2年以内18% 2年～5年21%

5～8年34% 8年以上27%

◎入院経験 有124% 無176%

◎BUN(尿素窒素)・Cr(クレアチニン)検査データ

I、BUN20mg/dl以上の者 22%

II、Cr2mg/dl以上の者 6%

III、BUN20mg/dl以上、Cr2mg/dl

以上の者 4%

N、検査上安定している者 72%

◎初診時より検査データが悪化している者

悪化 6% 安定又は軽快 94%

これらの調査結果から、

①疾病に男女差はない。②5年以上通院が2/3近くいる状況は、長期的な管理が必要であることを示している。③1/4の入院経験者があるが、検査入院などもあるので、入院したか否かで病状の軽重はあまり問題にしないで良い。④大部分の人が検査上安定している。

◎悪化した患者の中には、通院を中断して透析治療にまで進行した人が数人います。腎臓病は自覚症状がないので検査をしなければ状態がわかりません。

完治するまでは根気よく通院して、医師の指導を受けることが悪化させない唯一の条件といえるでしょう。

◎通院が長期になるので同病の患者との交流は欠かせないので、患者の集まりである腎友会に是非入会して欲しい。

坂先生談「腎機能が正常な段階から通院して透析に至った人はこれまで一名だけです。十四、五年同じ疾患で通院しながら管理されている人もいるので、中断しないことがなによりも大切です」

(代々木病院腎友会ニュース第37号より)

ドナー拡大などを討論

第六回関東ブロック会議開く

二月九日(土)～十日(日)にかけて埼玉県川口市友愛センターにおいて、第六回関東ブロック会議(埼玉腎友会主催)が開かれました。参加者二十一人、東腎協から宝生会長、平沢常任幹事が参加しました。

第一日(九日)は、午後七～九時まで自由交流会で、次回の主催県を千葉県腎友会に決めました。

第二日(十日)は、山本正治埼玉会長、上田昭全腎協会長からそれぞれあいさつを受けた後、議題に入りました。

八主な議題

一、各県の活動報告

二、討議事項

(1) 腎疾患総合対策について

東腎協から都立大久保病院の腎不全センターの完成(10月1日)の取り組みと成果の報告以外、特にありませんでした。

(2) ドナー拡大に対する運動の進め方
群馬県/ドナーカードを保健所の窓口へ置くよう県へ要請。

栃木県/県民への働きかけを、県・市・

町・村へ要請。

「腎移植を希望したい者は、運動に参加しない傾向にある」「透析患者がまず認識を深め、その家族への普及をさせる

ことが必要」などの意見がありました。

(3) 災害時の緊急透析治療体制の確保
に対する運動の進め方について

千葉県/患者会とテクニシャンとの話し合いで、避難方法が主に話し合われました。

他県は特に取り組まれておらず「中央防災会議のあり方、計画の促進を都県を

通して運動する必要あり」「各施設の実情を調査して、これをもとに対策をたてる必要がある」などの意見がだされました。

(4) 外来透析患者のための通院費補助
の要求運動の進め方について

千葉県/四市で福祉タクシー施策あり。

長野県/松本市で一カ月五、〇〇〇円を限度に補助。飯田市で福祉タクシー。
栃木県/身障手帳の呈示により半額にならる。

群馬県/身障手帳の呈示により半額になる(暗黙の了解)。

(5) その他

神腎協から「主催県の患者(会員)の参加を促進するため学習交流会の開催が必要ではないか」の提案があり「学習交流会は各都県が独自で実施した方がよい」

「講師や演題を決めるが難しい」などの意見があり、次回の議題にすることを決めました。

三、次期開催県について

昭和五十五年九月末までに、千葉県内で開催する/千葉腎友主催。

昭和五十六年三月末までに、栃木県内で開催する/栃木腎友主催。

経費については、年経費の半額を一團催分とし、それを超えた分については各都県が分担することになりました。

(報告者・平沢)

事務局からのお知らせ

55年度の会費を 納入して下さい

東腎協第八回総会は盛大に終わり、新しく選出された役員一同はりきって活動のスタートをしました。

つきましては、各腎友会、個人会員の皆さまには、昭和五十五年度の会費を納入していただくようお願いいたします。

福祉後退が身近に感じられる今日、私たち東腎協の会員も一丸となって、いろいろな運動にとりくんでいきましょう。

また、身近にまだ東腎協に未加入の方がいたら、ぜひ加入の訴えも合せて取りくんでいただくようお願いいたします。

△会費の納入方法▽

郵便振替か現金書留で事務局へご送金下さい。会費は一人年間二四〇〇円です。

郵便振替

加入者名 東腎協

現金書留

〒

よろしく

お願いします

(55年1月～4月13日まで)

△個人会員入会者▽

55年2月～3月

佐々木瑞穂、中山信弘、佐藤久希

4月

酒井英一、末崎美子、野口千里、風間

尚子、高橋利江

△患者会入会▽

55年1月

三和クリニック

〒190立川市錦町3の1の29 サンハ

イム立川1F

会員数六名

あけぼの病院

〒194町田市市中町1の11の11 あけぼ

の病院透析室付

会員数十二名

大橋クリニック

〒153目黒区大橋2の29の9 大橋ク

リニックス内

会員数二十名

大山中央腎友会

〒123板橋区大山東村56の6 メゾー

新大山三階 大山クリニック内

会員数十一名

●東腎協事務局に要件のある方は、

なお土、日曜日には事務所には誰もいませんので月、金曜日の午前10時～午後6時の間におかけ下さい。

●腎臓提供者登録カード普及に ご協力下さい

東腎協ではドナーカード拡大のため努力していますが、まだ登録された人は少数です。事務局にも登録カードの申し込み用紙がありますので必要な方は連絡して下さい。なお、直接腎移植普及会(〒106港区虎の門1の15の16船舶振興ビル五階)へ申し込んでいただいても結構です。

△編集後記▽

医学の進歩は早い。体内連込み型の人工腎臓が動物実験に成功したのニュースは、腎不全患者にとって本当にうれしいことだ。(加藤)

昭和五十一年二月二十五日第三種郵便認可

SSKO通巻第四百五十六号

昭和五十五年四月二十八日発行

発行所 身体障害者

東京都世

身体定期刊行物協会
各区店八一二一三

領価百円